



～夢・未来へ～
町民と議会をつなぐ

第76号

平成30年2月7日

河津町議会だより

12月定例会

町長の施政方針	3
定例会議案の説明	4～5
一般質問	6～13
一部事務組合報告	14～15
私も一言(大坪宏さん)	16

次世代に引き継ぐ 新たな河津町の創設を目指す



市長 岸重宏

●地域防災訓練
12月3日「防災は、日頃の備えと、

●治山事業 谷津権之久保
4千円で落札、契約した。

●第18回静岡岡崎市町対抗
駅伝競走大会 代表選手
12名が出場し、ふるさと
賞を受賞した。

町長の施政方針
11月26日就任した新町長は、「情報公開と町民参加のまちづくり」を基本施策とし、7つの公約をかかげ、町民本位の町政をめざす。行政・議会・住民が一体となった「オール河津」の町づくりを推進すると述べた。

行政報告（抜粋）
平成30年度予算編成方針
第4次総合計画に基づき「健康・福祉・地域医療体制の充実」、「幼児・学校教育・生涯学習等社会教育の充実」、「安心・安全に暮らせるまちづくりの推進」について重点施策とした。

●有功表彰
山本和之氏（見高入谷）
10月8日に伊豆市民文化ホールにて「川端康成の伊豆」をテーマに、実施した。

●河津桜 「河津川流域における河津桜並木景観検討会」を実施した。27名が参加し、検討会で作成する「河津桜並木景観計画」に反映させていく。また河津桜守人の会設立総会を行った。

7つの公約

- 1、子育て関連施設は、早急に予定地等の具体的検討を進める。
- 2、小学校の統合問題に積極的に取り組む。
- 3、防災対策については、

- 4、河津バガテル公園の再生について検討を進める。
- 5、第一次産業と第三次産業との連携に取り組む。
- 6、幼稚園、保育園の将来的な運営形態について検討を進める。
- 7、効率的な行政運営や開かれた行政を進めるために、行財政改革に取り組む。

●第2回河津フラワートライアソン大会
11月12日渋谷区トライアソン連合等の協力を得て開催した。個人279人、リレー14チームが参加した。

●伊豆縦貫自動車道関係
河津インターチェンジ地区では、工事用道路の拡幅工事が進められている。小鍋地区、逆川地区においては、説明会が開催された。天城越えルートへの早期事業化等更なる事業推進のため、国土交通省への要望活動を行った。

あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願ひ申し上げます



年頭のあいさつ

河津町議会議長 宮崎啓次

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆様におかれましては、平成30年の新春を輝かしく健やかに迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。さて、我々が暮らす伊豆半島では、昭和36年の伊豆急行開通に続く第三の黒船として、伊豆縦貫自動車道の工事が着々と進められています。議長として国土交通省、財務省への陳情に参画しておりますが、昨年12月に天城湯ヶ島―梨本間の天城峠道路が西側ルートで決定、今年環境影響調査に入ります。平成30年度には天城北道路が開通、いよいよ全線開通に向けた時間軸が見えてきました。今後は議会としましても、町内への容易なアクセス、魅力あるまちづくりの課題に取り組んでまいります。ところで、今年には国際的に特に東アジアで非常に悩ましい時代が続きます。北朝鮮による核・ミサイル開発による緊張が高まり、米国・中国・ロシア間の動きによっては外交問題が大きく左右されますし、特に国内の経済に与える影響は米国の景気拡大と相反し、直接大きく響くのが現状です。国内景気では、日経平均株価の高値により緩やかな拡大が続いており、好調に推移していると言われております。県内景気も高速道路沿線を中心に徐々に回復基調になっておりますが、半島である伊豆南部の市町では観光の低迷、個人消費の伸び悩みが続いております。しかし当町では、人口減少対策として、これまでの子育て支援政策、移住者支援の政策の効果として、直近1〜2年町内への移住者の増加傾向があり、県内他市町に比較し商工業者が唯一増加しております。さらなる施策の充実、差別化を図り、対策を進めなければなりません。議会としましては、行政との二元代表制を踏まえ、「地域産業の活性化と雇用創出」、「子育て支援の更なる充実」、「新公共交通システムの研究」、「実践的な防災教育の推進」等々、皆様の負託に応えられる様、町政のこれらの課題、諸施策に取り組む所存でございます。結びにあたり、町民の皆様のご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げます。新年の挨拶と致します。

10月22日 台風21号により 海岸線に甚大な被害



菖蒲沢漁港

**●承認第8号
一般会計補正予算
(第6号)**

10月に起きた台風21号により大きな被害を受けた菖蒲沢・今井浜などの災害復旧費に2436万2千円・南小プール防砂ネット日よけテントなどの撤去費用などに82万3千円・観光施設などの修繕費用などに311万6

専決

千円。合計で2829万9千円を繰越金から補正する。

菖蒲沢については迅速に処理をする必要があり11月29日に応急工事を行ったもので、1月になってから災害査定を受け省庁と協議を経て災害救援措置を受けられるように手続きをしているところ。工事費については交付税措置は1月末に決まる予定。

**●議第51号
一般会計補正予算
(第7号)**

歳入は繰越金、寄付金・国県からの支出金が主なもの3153万1千円。民生費と土木に多く歳入。歳入歳出総額をそれぞれ39億9178万6千円とする。

繰越明許費は大堰笹原線の道路改良に2340万円。

追加議案 平成30年度の債務負担行為としてごみ収集業務委託料9169万4千円。



大堰笹原線の道路改良 ハジット山付近

	議第1号	承第6号	承第5号	承第4号	同第4号	同第5号	議第49号	議第50号	議第51号	議第52号	議第53号	議第54号	議第55号
遠藤 規正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
藤村 正治	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
塩田 正司	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小田 和子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
土屋 貴弘	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
渡邊 弘静	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
稲葉 静次	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
宮崎 啓次	議長は採決に加わっておりません												
山田 勇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
土屋 桑太朗	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

改選後の初議会 町民の関心高まる

12月12日から第4回定例会が開かれました。11月に行われた町長選挙で、町長は改選され、初めての定例会です。日程は12日、13日、15日の3日間でした。議事は人事1件、専決3件、指定金融1件、条例改正1件、補正予算5件、追加人事が2件でした。質疑応答の結果いずれも可決されました。

一般質問は8名の議員が行いました。傍聴には大勢の方が訪れ、3日間の傍聴延べ人数は52名で、本会議にも15名が傍聴されました。

人事

**●諮問第1号
人権擁護委員 任期3年
三村 正美(長野)**

**●同意第4号
副町長
土屋 晴弥(見高入谷)**

**●同意第5号
教育長
鈴木 基(下峰)**

専決

**●承認第6号
一般会計補正予算
(第4号)**

10月衆議院議員選挙の費用として国庫から857万円、国庫補助以外の



役場会計室

指定金融機関

●議第49号

伊豆太陽農協を指定金融機関として指定するもの。

分を町会計から53万8千円で、計910万8千円の補正。

**●承認第7号
一般会計補正予算
(第5号)**

11月に実施された町長選挙の経費の補正587万8千円で、総選挙費用は618万8千円となった。

条例改正

**●議第50号
町職員の給与条例の一部改正**

人事院勧告に基づき改正をするもので給与表初任給の引き上げは1000円、他は400円引き上げ。ボーナスの支給月数を4・3カ月から4・4カ月分にするもの。

補正予算

**●議第52号
国保特別会計補正
(第2号)**

一般会計からの法定繰入決定分445万7千円、前期高齢者交付金が639万8千円、その他の繰越金4028万7千円、合計5114万2千円の補正。

**●議第53号
介護保険特別会計補正
(第2号)**

国県からの支出金の決定197万4千円、一般会計繰越金・諸収入等から152万2千円。合計で349万6千円の追加。

**●議第54号
水道事業会計補正
(第3号)**

人事院勧告に伴う主として給与の補正23万4千円の金額。

**●議第55号
温泉事業会計補正
(第3号)**

人事院勧告による給与引き上げの補正35万8千円。

町政を問う

一般質問



えん どう よし のり
遠藤嘉規 議員



放課後児童クラブ

質問：子育て拠点整備は、町長：放課後児童クラブ、保育ママ施設、一時預かり保育、子育てサロンなど「子ども・子育て会議」の答申に沿った内容により、建設へ向けて検討を進めたい。設置場所は答申でもあるように、津波被害等の災害への配慮を

する場所で、主体構造は木造平屋づくり、広い園庭を確保できる用地を検討したい。
質問：町民の声を集める工夫は、
町長：就任後、お母さん方と面会もした。そういうところでも意見を聞いていくことが大事。

過去の答申やアンケート等を参考にしながら、子育て世代のお母さん方と話す機会を多く持つて、必要なものの優先順位や財政上の問題も含めて、声を聞きながら考えていきたい。特にお母さん方が今、何を望んでいるのか、聞くことが大事。

答え 現在の支援事業を継続しつつ、新たな支援制度も考えていきたい

質問 子育て支援の今後は

質問：なぜ情報公開が重要となるのか。
町長：行政を進める上で、町民の理解を得て進めることが大事であり、原点。これまで受け身型の開示請求で求めていた資料などを、必要に応じて説明資料として公開することに、町民の意思が出しやすいう状況が生まれると思う。町も議会も正しい判断

町長：広く聞くという部分では、例えば町民モニター制度、アンケート調査、あるいは対話集会の開催などが挙げられる。要するに行政側から町民の声を少しでも吸い上げるといふ姿勢が大変重要

であると思っている。行政側から町民側に話す機会をこちらから問いかけていく。町の中でも結構ですし、会合とかあれば声を掛けていただいて、こちらから出かけるような、そういう声の聞き方もあるかと考えている。ふれあい町長室も継続し、対話の機会がふえるよう受け入れ態勢を変えている。

答え 行政への関心が高まり、是非の判断ができてやすくなる

質問 情報公開による、町民のメリットは

質問：自治体連携によるまちづくりの推進は、町長：賀茂地区の広域連携協議で実施しているが、賀茂地区1市5町で構成しているこの会議の中で、

共同事業をきめ細かい行政サービスとして進める必要があるのでは、1市5町の共通課題を取り上げた賀茂地区の総合計画には、課題を調整し、す

り合せて相当な時間と労力が掛かり、各町の調整や理解が必要であると思われる。

答え 賀茂地域の広域連携の中で進めて行きたい

質問 自治体連携によるまちづくりの考え方は

質問：町民本意の町づくりとは、理念、見識、行政・議会・住民の一体とは、七つの公約とは、町長：基本的には、制度づくりや、方針として進

めたい。常識とは、誰もが考えている大多数の人の考え、町民の声を聞いて、その中でやって行くことが常識と思っている。議会と対立でなく一歩一歩事業を進めて行くことによつて、理解できていくものではないかと思っている。少子高齢化が進むなか労働力となる子育て世代に町に住んでもらう、子

育てし易い環境づくり、年齢を重ねても元気で暮らせる時間を延長する健康づくりで、医療、介護サービスなど生活支援体制の強化構築に取り組み安心して暮らせる町が必要である。バガテル公園の再生は、パリ市と協定問題がありますので、今後検討して行きたい。南中跡地の有効活用も今後の動きを見て考えるべき。



つち や くめ た ろ う
土屋桑太郎 議員



庁舎内窓口事務風景

町政を問う

一般質問

質問 町長の公約について

答え 基本的に制度づくりや方針として進めたい

町政を問う

一般質問



うえむらかずまさ 上村和正 議員



農地中間管理事業(沢田)0.1ha 新規就農をお考えの方公募中(役場農業委員会まで)

質問：現在の取組み及び状況は。
産業振興課長：交流館で農産物販売、漁業経営振興会による朝市開催。林業は、まな板などの加工品の販売。平成28年度、再生可能遊休農地54ヘクタール中、耕作が困難となった所有者から、農地中間管理機構が借り受け、

借りたい担い手へ貸し付ける制度を利用する方が13ヘクタールあり、貸し出す意向を示した。
質問：どの様な形で検討を進めるのか。
町長：農地の維持対策、作物の利用法の検討や新たな作物の研究を進める必要がある。先日も農業技術研究所のセンター長

に今後の協力をお願いした。森林管理対策は、一市町では根本的な解決は難しい。今後、国の動きなどを注視しながら考えて行きたい。
質問：新年度予算編成について町長の公約がどの様に反映されるのか。
町長：予算査定の中で検討したい。

質問 一次と二次産業との連携の考えは

答え 関連団体と商品開発の研究が大事

質問：デステイネーションキャンペーンへの取り組みは。
町長：県の大型観光キャンペーンは、推進協議会を設けて県内5ブロックに分けて、それぞれ部会を設けて今後行う予定。
質問：4月から6月期は花の時期、花の町河津としてバガテル公園の活用

は。
町長：花や自然を楽しむ企画が考えられる。誘客のための企画を推進協議会と煮詰めていく必要がある。インスタグラムも有効な手段で、公園担当に今後検討するよう指示をした。
質問：町観光協会への観光振興費の取り組みは。

町長：町が行う事、観光協会が行う事、両者が共同で行うものとの仕分けが大事。町観光協会は、独立法人化となり、独自事業や営利事業も可能になる。今後の事業や方向性を見ながら、予算査定を通して検討していきたい。

質問 県や町観光協会との連携は

答え 先駆的事業、公的役割を担うものは必要性を感じている

質問：町が二分されたと言っ方々もいるようだが、出直し町長選挙により岸新町長が選出された。ラグビー用語で言う所のノーサイド精神で町民一体となり、前に進んで行くべきと思うが、これまでの落ち着いた河津町に戻し、正常化させるためにどのような取り組み

のか。
町長：町民全体が一丸となり、魅力あるまちづくりを進めていかなければ、河津町に未来は無い。一つ一つ行政課題について、町民の意見を聞きながら進める。
質問：私は割れているのは議会だけだと思っている。意見の食い違いのあ

る議員とどのような姿勢で向き合っていくのか。
町長：議員も町民の代表なので、民意を大切に行政のチェック機能として、町民の視点に立って判断していただきたい。意見の食い違いがあるのは、場合により当然と考えている。時間をかけても話し合う。

町政を問う

一般質問



しおだまさはる 塩田正治 議員



南中学校跡地

質問 南中学校跡地を早急に埋め戻してほしい

答え 現状土が無い、有効利用を検討して進めたい

質問：南中学校跡地の埋め戻しをさくら祭りの開幕前に早急にお願したい。駐車場として利用可能なら、さくら祭り期間中の収益も相当見込めるはず、また毎年の懸案事項でもある駅前から原木付近にかけての慢性的な交通渋滞対策にもなると

考えるが。
町長：土は、現状では無いと聞いている。さくら祭りの駐車場として利用するのも1つの案だと思うが、この土地については、当時は、施設を建設する方向で、効率的な工事ができるように約2,000立米の土の排出を約45

0万円かけて行ったようだ。この土地は、遺跡調査も地質調査も終了している有利な点もあるので、今後どのような方向で進めて行けば良いのか、方向性をしっかりと決めた中で、町有地有効活用ということで検討していきたい。

質問 町内の正常化にどのように取り組むか

答え 一つ一つ行政課題を確実に進めていく

質問：町が二分されたと言っ方々もいるようだが、出直し町長選挙により岸新町長が選出された。ラグビー用語で言う所のノーサイド精神で町民一体となり、前に進んで行くべきと思うが、これまでの落ち着いた河津町に戻し、正常化させるためにどのような取り組み

のか。
町長：町民全体が一丸となり、魅力あるまちづくりを進めていかなければ、河津町に未来は無い。一つ一つ行政課題について、町民の意見を聞きながら進める。

町長：私は割れているのは議会だけだと思っている。意見の食い違いのあ

町政を問う

一般質問



やま だ いさむ
山 田 勇 議員



東小学校 運動会 (教育委員会より提供)

質問：複合施設が白紙撤回された今、子育て関連施設がどうなるのか町民の関心が高いが。
町長：人口減少問題、若い人たちの定住問題を考えた時、子育ての環境整備は早急に進める。先ず用地を探す。津波等災害に安全な所に木のぬくもりのある建物、子供たちが

のびのび遊べる広い庭、そのような所を考えている。
質問：小学校の統合問題、早急な対応が必要ではないか。
町長：平成33年度には複式学級が想定される。幼稚園、中学校は統合されているなかで、小学校も一つになるべきだ。ただ、学校は地域のシンボルとしての役割もある。地域の方々

の理解が必要だ。
質問：統合問題は教育環境整備委員会あり方委員会ではなく、統合検討委員会ですすめてはどうか。
町長：統合検討委員会については今後確かめたい。あり方委員会についても教育効果という部分もある。地域問題も含めて総合的に検討したい。

質問 子育て施設をどうするか、小学校の統合は

答え まずは用地を安全な所に、小学校統合も早急に検討

質問：オール河津を進めるためには情報公開、町民との対話が大事と言っているが。
町長：町長選挙では、複合施設の問題で町を混乱させたということもあり、これからは住民、議会、行政が一体となったまちづくりが大事であると思う。情報公開をしなければ

ば町民の皆さんは正しい判断ができない。今までの情報公開は住民からの開示請求で公開したもの、これからは情報提供施策として情報公開の充実に取り組んでいきたい。
質問：町民との対話、町民の声を聴くのは、地区座談会が非常に大事だと思ふが。

町長：ふれあい町長室の様には個人的な声、大勢の中で聞く地区としての住民の意見など、直接聞くことは大変大事である。地区座談会は次年度予算に反映できるような形で、要望事項についても地区としての、優先順位も検討できるような事も含めて、開いたらいいと思う。

質問 「オール河津」を進めるために大事なことは

答え 住民、議会、行政が一体となったまちづくり

町政を問う

一般質問



テナント募集中「バガテル公園 レストラン」



こ ばやし かず こ
小 林 和 子 議員

町民生活課長：町は今4方式で算定。県が30年度以降示す標準保険料率は資産割合を除く3方式で算定される予定。町では3方式への変更も考慮しながら検討をする。
質問：国保都道府県化に伴い何がかわるのか。
町長：市町ごとの運営から市町と県での運営に。
質問：納付金はどうか決まら

れてくるか。
町民生活課長：県は県全体の保険給付費総額を算定し、市町ごとの年齢構成・所得水準・医療費水準を考慮して各市町の納付金を決定。町は県から示された国保事業納付金と標準保険料率をもとに、歳出総額を算定し被保険者に賦課するという形になる。
質問：国保世帯の保険税は

払える額でなければならぬ。国県の支出金は減少一方で町も県も国へ意見を上げることが重要。健康長寿を目指す取り組み・保険税の検討はどうか。
町長：高齢化に伴い、医療費がかさむことは十分考えられる。健康づくりへの取り組み・健康寿命の延伸など大事な施策と考える。

質問 これから国民健康保険税はどうかなるか

答え 加入者減・医療費増から増加と推測される

質問：町政を町民本位・町民の意見・町民と一体で実行するための施策は。バガテルの再生はどう考えているか。
町長：行政側から様々な手段で情報を公開する。重要な会議は内容を知らせる。大きな事業は計画段階から知らせ、意見を

聞きながら決めていきたい。バガテルの方向が決まれば地権者との話し合いも進める。
質問：各種情報は町の宝だ。情報公開は条例に則り遂行されたい。町民の声・職員の資質向上など、まちづくりの基本方針が必要ではないか。北海道

ニセコ町のまちづくり条例が素晴らしい、参考にすべき。町の行革、財政改革はどう考えるか。
町長：財政は職員に財政教育をすると共に、国県の補助金を取り込み健全な財政運営に努めたい。

質問 子育て施設の目標設定はあるか

答え まだ確定していない

町政を問う

一般質問



なか さと し 議員 仲 里 司



桜守人 剪定作業

町政を問う

一般質問



わた なべ ひろし 議員 渡 邊 弘



新たな財源、風力発電 固定資産税 年間約8,000万円(H29)

質問 総額17億以上の事業計画は問題があったか

答え 間違っていたかはコメントしない

質問：議会議決された複合施設建設に反対した理由。

町長：議員有志の請願署名の提出に対して町の対応に疑問を持った。

質問：目的が達成され政治活動に参加しないと断っていたのに、なぜ町長に意欲を出されたのか。

町長：混乱したと言われるこの状態を一旦沈静化させて欲しいと出馬要請があった。

質問：総額17億円以上の事業計画は町の計画として問題があったか。

町長：間違っていたかどうかはコメントしない。

質問：リコール選挙にお

質問 議会議決についての考え方は

答え 住民の意見は尊重する

質問：町民の意見を尊重

しますとありますが、どのような方法で収集をして取り組まれるか。

町長：間接民主主義が行われておりますが、大切なのは住民が自らの手で治めていくことが町民の役割である。

質問：常識の通用する政

策は。

町長：大多数の町民が考えていることが常識です。

質問：議会の議決についての町長の考え方は。

町長：議決も大事ですが住民の意思は尊重する。

質問：子育て関連施設は早急にとあるが。

町長：用地関係を早急に

検討する。

質問：子育て医療費の問題で、高校生までの無料化、インフルエンザ予防接種の無料化が必要。財源は1千万円に対応できる。

町長：今後検討をする。

質問 河津桜の保護育成とオーナー制度について

答え 河津桜の保護育成は大事

質問：平成26年に作成された保護育成計画には河津桜を楽しく回遊作りがあるが、思いきって回遊コース向けに原木を移植する考えはあるか。

町長：河津桜は町民の心の支えとして大変貴重。

原木は長寿命化のために月1回樹木医に育成状況を

質問：保護育成資金を集

めるための「河津桜のオーナー制度」の創設はどうか。

町長：保護育成の費用としては、「桜の育成保護」向けとしてふるさと納税をいたいた分を使うが、どのような資金を使って

これからの桜の保護育成をしていくことがいいのか、オーナー制度とともにもう少し時間を要して検討したい。

ふるさと納税(平成28年度)

総額 約6,200万円
そのうち桜の育成保護向けには、
約1,450万円
(うち経費を除く850万円を利用している)

質問 人口減少が続いている町への弊害について認識を問う

答え 生活全般に様々な影響を与えることが懸念される

質問：人口を少しでも増やす方法をどのように考えているか。

町長：人口は急には増えるものではないと思っ

子育て環境をよくするの

質問：Uターン希望者への

町長：賀茂地区ではなか

なか専門職が見つからな

いのが実情。町としても採用年齢を上げるとか給与についても検討して、採用条件を考える必要がある。

平成29年度 賀茂郡町議会議員研修会

11月16日 東伊豆町役場にて「賀茂郡町議会議員研修会」が行われた。「地域資源をいかに活用して地方創生を実現するか」をテーマに、講師に水津陽子氏（合同会社フォーティR&C代表）を招き講話と意見交換を行った。

新たな資源や付加価値資源で交流人口を増やす他の地域と比べて、賀茂

郡はどうか。いずれ好景気がまた来ると過去を引きずっていないか？近隣市町と同じ観光資源で競っていないか？計画的なプロモーションで顧客対象に情報を届けているか？観光客が地域にお金を落としていく仕組みを考えているか？誰が地域観光を推進するのかなど、多くの問題点に気づかされた。

訃報

土屋桑太郎議員が1月19日、御逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

（享年77歳）

土屋桑太郎議員は平成10年に58歳で初当選以降、5期18年9か月に亘り活動されました。監査委員、議長2回、賀茂郡議長会会長、県町村議会議長会会長を歴任。県町村議会議長会自治功労者表彰等を受賞されました。

エコクリーンセンターの延命改修工事 総事業費は約29億8695万円

なぜ改修工事が 必要なのか？

東伊豆町と共同で運営するエコクリーンセンターは、運用開始から今年で16年目を迎えました。施設には安全に利用できる期限が16年とされており、このままでは老朽化により利用できなくなるため、数年前から焼却炉の改修工事か新設かを検討してきましたが、全体としては現状の施設を活かし焼却炉を改修工事する事に決まりました。

改修工事の内容は？

ゴミ焼却炉は2炉体制で稼働しています。この焼却炉を2炉同時に工事すると、日々の生活ごみの処理が出来なくなるため、片方ずつ改修工事を行い、施設全体を延命します。

副町長 土屋晴弥



昨年12月23日付で副町長に就任いたしました。よろしく申し上げます。

教育長 鈴木基



天城風の厳しい日でした。昼休みに庭に出ると、図書館のデッキで、一人の女子中学生に出会いました。わずかに光は当たっているものの、強風が吹き抜けていきます。そんな

以前は役場職員として勤務していましたが、退職後は農業に従事してきました。

これまでの役場職員としての行政経験を活かし、「住みやすく、活気のある町」になるよう、一生懸命努めさせていたと思いますので、町民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

な中で、背筋を伸ばし、泰然とお弁当を食べています。凛々しい姿でした。しなやかな逞しさも感じました。「部活帰り？」の問いに、「今日は午前中学校で勉強しました。午後から図書館で学習しようと思っております。」初対面にもかかわらず、歯切れよく明瞭に答えてくれました。私の仕事の一つは、このような子どもたちの、よりよい成長や発達を保証すること。そんな思いを再確認しました。

一部事務組合報告

●下田メディカルセンター議会

29年度上半期病院事業業務状況説明書から、入院延患者数は、前年同期比16・0%増の1万5252人。外来患者数は、前年同期比6・4%増の3万2515人となりました。

視察研修について

下田メディカルセンターと同規模で先進的な取り組みをしている2つの公立病院を視察研修した。山梨県の都留市立病院では、公立病院改革プランである医師看護師確保および産科の再開について。また、三浦市立病院では旧公立病院改革プランの赤字体質からの脱却について、民間人を事務長に採用した経営改革を研修した。

勉強会の実施

※周産期医療にかかる勉強会を下田メディカルセンター議員むけに行った。

●東河環境センター組合議会

平成29年9月28日、東河環境センター第2回定例会が開かれた。内容は28年度決算報告で、歳入

7億7992万1千円。歳出7億1753万円。平成29年度補正予算（第1号）5239万1千円を繰越金として当年度予算へ繰入れた。

西伊豆町、松崎町の 協力を得ます。

工期中の3年間は1機の焼却炉で対応するため、処理しきれないゴミが出ます。そのため、町内に出るゴミの半分を西伊豆町と松崎町のごみ処理施設まで運び、処理をお願いする事になりました。

ゴミ運搬の追加予算を組みました。

工事期間中、西伊豆町、松崎町までゴミを運ぶ必要があるため、今議会において、「可燃ごみ・資源ごみ等収集業務委託」として、9169万4千円の追加予算措置を行いました。

これまでの経緯

日付	経過内容(一部)
平成25年10月23日	東河環境センター施設整備等推進委員会が施設の延命化工事をボイラー化方式で行うことを決定
平成27年7月29日	全員協議会で両町の負担割合の決定⇒東伊豆町59.35%：河津町40.65% 国の交付金についての説明 現行の水噴射方式→3分の1 ボイラー化方式→2分の1(国の補助金見直しで3分の1になる公算)
8月24日	環境大臣に「補助率2分の1」を陳情
平成28年2月19日	第1回定例会議…施設改修に関する見直しを当局に口頭申し入れ
5月26日	環境省、財務省などへ陳情
6月29日	第1回臨時議会…延命化工事資料および資金計画など提示
9月29日	第2回定例会議等…ボイラー化方式の見直し提示あり
10月24日	第2回臨時議会…ボイラー化方式から水噴射方式(現行と同じ)へ変更を承認 補助金率2分の1に決定
12月20日	第3回臨時議会…工事概算総額 31億7422万円
平成29年2月24日	第1回定例会議…29年度予算承認。エコセンター延命化工事決定
9月28日	第2回定例会議…29年度事業費確定、本契約となる。29億8695万円

※周産期医療とは、妊娠22週から生後満7日未満までの期間を指し、産婦人科と小児科が融合した医療

議会の動き

●議長の活動

- 9月
 - ・ 県町村議長会総会(静岡市)
- 10月
 - ・ 賀茂郡議長会総会

(南伊豆町)

11月

- ・ 賀茂郡町議会議長会議
員研修会 (東伊豆町)

●町議会の活動および 常任委員会活動

9・10・11月

- ・ 例月出納検査報告

9・10・11・12月

- ・ 議会広報編集委員会

9月

- ・ 社会福祉協議会理事会
- ・ 河津町表彰審査委員会

10月

- ・ 国保運営協議研修会
- ・ 天子平太陽光発電システム現地調査



宮崎 啓次 議長

11月

- ・ 社会福祉協議会計画策
定委員会

- ・ 定例監査結果報告

- ・ 台風21号被害状況現場
視察

●議長に要請の諸会合

9月

- ・ 国道414号整備促進
要望活動 (静岡市)

10月

- ・ ふるさと文学2017
フォーラム (伊豆市)

- ・ 全国土地改良静岡大会
(沼津市)

11月

- ・ 青少年の主張大会
- ・ 河津町社会福祉大会

- ・ 河津町フラワートライ
アスロン大会

- ・ 「華の町 普代村」構想
プロジェクト記念植樹
式 (岩手県普代村)

- ・ 河津桜を被災地熊本で
咲かせようプロジェクト
記念式典 (熊本市)

12月

- ・ 静岡県市町対抗駅伝競
走大会 (静岡市)

- ・ 河津町表彰式

私モ一言

「第18回しずおか市町 対抗駅伝」を終えて



市町対抗駅伝
河津町選手団監督
大坪 宏さん

せて頑張りました。その結果獲得した賞であり、とても意義のある結果であると思います。

河津町は、県内でも3番目に人口の少ない町でもあります。小さな町でも、やれば出来るのだ」という大きな自信にも繋がりました。

入賞は今回で2回目ですが、今大会では、5位に約30秒と迫る区間もあり、もう一つ上の順位も現実味を帯びてきました。

選手団の皆さん、今回は、選手・スタッフの誰ひとり欠けても残せない結果でした。本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございます。

町民の皆様からの応援は、選手団にとって大きな力となります。今後とも

も宜しくお願い致します。

※1 人口1万人未満の町(対象5町)の1位に与えられる賞です。



編集後記

議会は今年も読みやすい、わかりやすい編集に心がけ、一人でも多くの町民の皆様にご覧いただけたらと思います。今年もよろしくお願いいたします。(仲)

河津町議会は「虚礼廃止」を申し合わせています。議員の年賀状などの挨拶状は廃止していただきます。この紙面を借りてご挨拶に代えさせていただきます。